

献 辞

商学部は、2015（平成27）年度に、1905（明治38）年の現神田校舎の地での商科の創設から数えて商学教育110年、1965（昭和40）年の学部設置から数えて50周年を迎え、2018（平成30）年度には、会計教育100周年、会計学科50周年の節目の年を迎えました。さらに、2020年4月には、商学部の1年生から4年生がまとまって、発祥の地・神田神保町に移転する予定となっています。こうした商学部にとって大切な時期をともに支えてきてくださった、杉野文俊教授が古希を迎えられ、2018年度をもって本学を定年退職されることとなりました。

杉野文俊教授は、1971（昭和46）年3月、東京外国語大学ドイツ語学科を卒業された後、同年4月に東京海上火災保険株式会社に就職されました。同社勤務の傍らで、2001年4月より青山学院大学大学院経営学研究科修士課程（経営学専攻）に入学し、2003年3月に同大学院修士課程を修了されました。また、修了と同時に東京海上火災保険株式会社を退職し（退職時の役職はコマーシャル損害部専門次長）、関連会社の東京マリンクレームサービスに転職されました（2005年3月まで在籍、役職は企業損害部 特命部長）。

そして、2004年4月より専修大学商学部兼任講師となり、翌2005年4月、本学商学部講師に就任され、2007年4月准教授、2013年4月教授に昇格されました。学内での役職は、学生部委員、障害学生支援推進委員会委員、就職指導委員会委員を務められました。主要な担当科目は、損害保険、保険論、ビジネス英語C・Dなどがあげられます。ご研究の専攻分野は、保険論およびリスクマネジメントで、長い企業での実務経験を活かして理論と実務との橋渡しとなるような著書・論文を多数発表されています。

私事ながら、杉野先生は、普段は温厚で泰然自若とされているのですが、ときおり社会の常識と大学の常識のズレを気付かせてくれるような一言を発せられたのが印象的でした。

いよいよ商学部の神田キャンパスへの移転まで残すところ1年となりました。そうした中で、杉野先生は退職されていきますが、ぜひ私たちが神田神保町の地にしっかりと根を張って行く様子を見守り、ときには叱咤激励していただきますようお願い申し上げます。

2019年1月吉日

商学部長 渡辺 達朗